

# 令和3年度鶴岡市国民健康保険運営協議会

## 第1回 会 議 録

- I. 日 時 令和3年8月4日(水) 13:00~14:35  
 II. 場 所 鶴岡市役所議会棟 委員会室  
 III. 出席状況

		出 席	欠 席
委 員	被保険者代表	齋藤源之助、齋藤邦夫、熊木 誠	小池 貢、 佐藤清八郎
	保険医代表	佐久間正幸、三原一郎、迎田 健、 鳥海良明	福原晶子
	公益代表	坂本昌栄、田中 宏、秋葉 雄、 阿部 寛、五十嵐一彦	
	被用者保険代表	小池信明	
	計	13名	3名
市 側	山口副市長 渡邊健康福祉部長 関係課長等 本 所 佐藤国保年金課長、村上課税課長、五十嵐納税課長、 伊原健康課長、齋藤スポーツ課長 藤島庁舎 長谷川市民福祉課長 羽黒庁舎 佐藤市民福祉課長 櫛引庁舎 前田市民福祉課長 朝日庁舎 小野寺市民福祉課長 温海庁舎 加藤市民福祉課長 国保年金課職員(山口課長補佐、難波主事、石田主事) 健康課職員(児玉成人保健主査、渡部主事) 計 17名		

IV. 公開・非公開の別 公開

V. 傍聴者の人数 1人

VI. 議事概要

1. 開 会 国保年金課長
2. 委嘱状交付 熊木誠委員、小池信明委員  
(所属団体での異動等による委員交代)
3. あいさつ 秋葉会長

[人事異動に伴う新任職員紹介] 国保年金課長

[出席委員報告] 国保年金課長

以下、秋葉雄会長が進行

4. 会議録署名委員の指名

秋葉会長より齋藤源之助委員（被保険者代表）、佐久間正幸委員（保険医・保険薬剤師代表）を指名

5. 報 告 (1)～(5)一括報告

- (1) 国民健康保険税当初賦課状況について (説明：国保年金課長)
- (2) 滞納者対策について ( 同上 )
- (3) 後期高齢者医療制度の施行状況等について ( 同上 )
- (4) 新型コロナウイルス感染症の影響及び対応について
  - ①世帯数・被保険者数
  - ②保険給付費 (説明：国保年金課長)
  - ③傷病手当金の支給 ( 同上 )
  - ④国保税の減免 (説明：課税課長)
  - ⑤国保税の徴収猶予 (説明：納税課長)
- (5) 令和2年7月豪雨災害への対応について (説明：国保年金課長)

◆質問・意見

なし

6. 協 議

- (1) 令和2年度鶴岡市国民健康保険特別会計決算について
  - 国民健康保険特別会計（事業勘定）について (説明：国保年金課長)
  - 国民健康保険税収納状況について (説明：納税課長)
  - 国民健康保険特別会計（直営診療施設勘定）について (説明：朝日庁舎市民福祉課長)
  - 第2期データヘルス計画実施状況について (説明：健康課長)
  - 健康・生涯スポーツ推進事業について (説明：スポーツ課長)

◆質問・意見

坂本昌栄委員（公益代表）

資料13ページの国保の財政見通しのところで、令和3年度の国保税が、令和2年度の収納率から考えると低く見積もられていると感じるが、何パーセントで見積もっているのか。また、2億円以上の返金があるとのことだが、先日庄内地区の国保連協の研修会で酒田市や三川町では前年度の繰越金を基金に積み立て、足りない時は取り崩しているとのことだった。本市では残高は前年度の繰越金としているため見えづらくなっている。この3～4年間で12億、16億と積み上げられているが、基金への積立を考えるべきではないか。

国保年金課長

はじめに、令和3年度の国保税収入の見込みについて、金額は25億9,794万円となっているが、資料1ページにあるとおり、当初賦課調定額が26億8,927万円となっており、この時点で令和2年度の当初賦課額より4.18パー

セント減となっている。最終的な調定額は当初賦課の調定額から約 2 パーセント下がる傾向にあり、さらに現年度の収納率は、昨年度の収納率 95.5 パーセントも含めて過去 3 年間の平均をとり、94.5 パーセントと見込み、25 億 9,794 万 2 千円となった。当初賦課額が出ているので、収納率をどう見るかということになるが、先ほど納税課長から説明したが、コロナ禍という特殊要因がある中での収納率 95.5 パーセントであったので、現在のところでの見込みとしては過去 3 年の平均を取った形で上方修正を行ったものであり、現時点では妥当と考えている。令和元年度の所得を反映しての令和 2 年度の賦課額が高いわけで、一人当りの調定額が今年度は落ちているため、令和 2 年度との開きは出てくると考えている。

次に国保事業運営基金について、平成 30 年度から県との共同運営に移行したことに伴い、基金条例を改正している。以前は保険給付を賄うため、概ね 2 か年の保険給付の平均の 5 パーセントを積立する規定となっていたが、見直しを行い改正した。平成 30 年度以降、現在に至るまで繰越金を基金に積み増ししていない状況である。平成 30 年度に税率の引き下げを行った際、その財源として繰越金や基金の取崩しを予定していたことから、積み増しを行ってこなかったと承知している。昨年度は税率改正を見送っており、繰越金も 14 億円を超える額となっていることから、他市での取り扱いや他の会計の例を参考にしながら、また今後の財政状況を見ながら、方向性を検討していきたいと考えている。

坂本昌栄委員（公益代表）

検討していただけるとのことだが、わかりにくい会計になっていると思う。酒田市とお話しさせていただくと、余ったものは入れる、そこから取り崩すという方法がきちんと見やすいということで、鶴岡市は、単年度収支と形式収支という形でわかりにくくなっている。実際、形式収支でいうと令和 3 年度は 16 億円のほかに 8 億 5 千万円あると捉えなければならない。このことは、酒田市の 21 億円と比べるとそれ以上にあるということなので、はっきりさせた方がよいと思うので検討していただきたい。

田中宏委員（公益代表）

資料 20 ページのデータヘルス計画の課題とその対策の中の肥満について二つあり、それが糖尿病に関係していくと想像するが、山形新聞の記事に山形県の子どもは肥満傾向が高いとあった。全員調査ではなく、ピックアップした割合ではあったが、小学校から中学校までほぼすべての年齢層で全国的に高い、体格が恵まれていると表現されていたが、何を食べているのか心配になる。山形県人はラーメン好きと言われるが、(対策の) 20 歳から 30 歳代の早い段階からの生活習慣病予防の意識づけというのは、例えば週に 3 回ラーメンを食べるなどということではないかと想像する。年配になってから習慣づけしようとしても難しいので、子どもの頃からの意識づけと関係して、親が食べているものと関係してくると思う。このように考えると、国保の枠組みの中だけでの対策には限界があると思うが鶴岡市全体としてどのように考えているか。

健康課成人保健主査

若い世代からの保健指導としては、鶴岡市独自でさわやか健診という 20 代

以上の健診と保健指導に力を入れている。特に男性については、資料にある課題は、近年に限ったものではなく以前からのもので、3か月フォローも含めて食事・運動について保健指導している。幼少時からの指導については、3歳児健診で体格が肥満とされたお子さんについては、元気キッズ教室でフォローしている。小児科医師、保健師、栄養士で就学前までの保健指導として経年的に見ている。学童期については、健康課に係わる世代ではないが、学校保健委員会に出席し、情報共有している。特に若い世代の朝食の欠食が問題となっていることから、欠食を防ぐ、孤立して食事をする孤食を防ぐなどの話題提供をしている。若い頃からの食生活の偏りについては、課題として捉えているので、今後も継続して支援していきたい。

田中宏委員（公益代表）

今年の6月作成の山形県子どもの肥満対策という資料が県のホームページにあるが、6歳から17歳まで全国平均を上回っている。意識づけという点については、子どもの頃からということが大人になってから効いてくると思うので、小・中学校については少なくとも鶴岡市で責任がとれるところなので、頑張ってもらいたい。スマートイトも関係づけてやれたらよい。他の自治体では学校給食に力を入れているところもある。

次に、フレイル予防は後期高齢者に限らず50代からの取組みと言われている。資料22ページ23ページにある健康・生涯スポーツ推進と介護予防、フレイル予防とのつながりについてどのように考えているか。

健康課長

フレイル予防については、データヘルス計画にはないが、65歳以上の高齢者を対象とした健康教室での取組みを進めている。委員からのお話しにあったように、より若い頃からの運動習慣への取組みは今後進めていく必要があると思う。生涯スポーツの中での取組みについてもフレイル予防につながっていけるよう、今後取り組んでいきたい。

スポーツ課長

スポーツ課では、市民の健康、体力づくりを目的としてウォーキングを推奨している。てくてく健康「里山あるき」を通して、多くの市民から健康づくりに取り組んでいただきたいと考えている。一番に、運動を継続していただくことが必要となると思う。その部分については、昨年度は50万歩・100万歩への挑戦ということで取り組んだが、広がりが出ないということもあり、できるだけ多くの方から日常的にウォーキングなどの身近に出来るスポーツから取り組んでいただきたいと考えている。様々な形でスポーツに取り組んでいただけるようピーアールに努めている。

田中宏委員（公益代表）

ウォーキング50万歩・100万歩への挑戦の参加者の平均年齢が72歳となっている。100歳体操を行っているグループの世代層と似ているが、それがどのようにつながっているのかいないのかというあたりが問題だと考えている。鶴岡市の施策にチャレンジデーという事業があったが、1万とか2万人の参加者があり、なんらかの気づきのあるよいイベントだったと評価している。ウォーキングもすごくよいと思うが、参加者が少ないと思うので、広げていく工夫が必要である。

佐久間正幸委員（保険医・保険薬剤師代表）

子どもたちの肥満の件について、鶴岡市では荘内病院の伊藤先生が長年取り組んでいたため、肥満の子は他の地区よりは少ないと思う。長年学校医をしているが、肥満の子は減っているような気がする。教育委員会に聞けばわかると思うので、次回教えていただきたい。

健康課長

鶴岡市の小学生の肥満率について、他市との比較等を把握していないので、次回まで把握してお答えしたい。

佐久間正幸委員（保険医・保険薬剤師代表）

国保の会計には関係ないが、生活保護の方が増えている気がする。お金が払えないなどで国保から生活保護に移っていくという例はないのか。

健康福祉部長

生活保護の件数はここ数年横ばいで推移している。新規で生活保護になる方の状況を見ると、国保税だけではなく、年金収入のみなど生活に必要な収入が足りないという理由が中心になっている。国保税を含めた生活状況の全般的な悪化から生活保護となっている状況である。

坂本昌栄委員（公益代表）

10 ページの医療費等状況について、資料の上から三つは鶴岡市が上位にいるが、保険者努力支援分については5位である。酒田市や他の市はどの部分が良くて上位にいるなどの情報を把握しているか。

国保年金課長

鶴岡市で点が取れていないところいろいろあり、生活習慣病に関する項目などがもう少しというところである。他市の状況については資料を持ち合わせていないため、調査し後ほどお答えしたい。

#### ◆承認

令和2年度鶴岡市国民健康保険特別会計決算について、挙手全員にて承認

#### (2) その他

齋藤源之助委員（被保険者代表）

国民健康保険税の納付方法が10月からは普通徴収から特別徴収に変わるとの通知が来た。口座からでなく年金からとなる理由は何か。

課税課長

年金からの特別徴収は、4月1日現在で65歳になっている場合、国民健康保険税や市県民税は年金から引き去りをさせていただくという制度が、市県民税は平成21年度から、国保税はそれ以前からある。そのため、10月から国民健康保険税を年金から引き去りすることになる。

齋藤源之助委員（被保険者代表）

選択もできるとの案内だったが、世帯主が年金受給者でない場合はどうなるのか。

課税課長

国民健康保険税の特別徴収については選択制になっていて、口座振替または納付書で納めていただくことも可能である。世帯主が年金受給者でない場

合は、選択はできないことになっているので、年金からの特別徴収をお願いしたい。市県民税の場合は選択制がないので、全ての方について、年金分は年金から引き去りをする事になっている。

※会議終了後、答弁の一部に誤りがある旨の申出あり。次回委員会にて訂正する。

#### 7. その他

○事務局（国保年金課長）より当日配布資料等について説明

- ・国民健康保険税（料）水準の医療費水準反映について（要望書提出）
- ・子どもに係る国民健康保険料等の均等割額の減額措置の導入について（情報提供）
- ・次回の国保運営協議会：11月末から12月を予定

#### 8. 閉 会 副市長

議 長

秋葉 雄

会議録署名委員

齋藤源之助

会議録署名委員

佐久間 正幸